

令和7年3月25日

令和6年度 学校関係者評価・第三者評価 報告書

奈良学園幼稚園

本年度も学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

①令和6年11月29日（金） 10:00～12:00

②令和7年 3月 6日（木） 10:00～12:00

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会（幼稚園）

①令和6年 6月13日（木） 10:00～11:30

②令和6年11月14日（木） 10:00～12:00

③令和7年 2月21日（金） 10:00～11:30

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

I-①

1. 学校関係者評価実施日 …令和6年11月29日（金） 10:00～12:10

はじめに、本日の予定を確認後、M4（中学2年）の英語、PP（幼稚園）の交通安全教室、PI（小学1年）の英語の授業見学していただき、その後ご指導いただいた。

2. 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、横幼稚園園長

立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長

三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

4. 評価結果

①各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

全校種の定める中期計画をもとに重点取り組みを報告する。

幼稚園：○保育の質的向上の取り組みとして、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を全教員で共有し合いながら日々の保育を進めている。インクルーシブ保育の視点を持った保育や体力づくりの向上に向けて小学校の臨床心理士や特別支援教育アドバイザーや小学校教員と連携をしながら滑らかな接続も含めて取り組んでいる。

○自然と親しむきっかけや環境作りとして、奈良学園大学と中高の自然再生研究会との共同研究事業の水中の生き物観察や外部講師による園庭の身近な生き物観察会を行った。今後探究活動につなげたい。

○園行事の見直しを行い、2学期に行っていたマーチングフェスティバルをやめたり、7月に実施していたお泊り保育を2学期に移したりし、園児がじっくり豊かな遊び

や学びに取り組めるようにした。

○今年度より午前中全て参観してもらえる自由参観日を設定し、登園から降園までの普段の園児の様子を見てもらえるようにした。

○昨年度から行っている奈良学園幼稚園日記に加え、2学期から各担任からも学級通信（月一回程度）を作成するようになった。また、毎学期個人懇談を行い、保護者に園児の様子を伝える機会も設けている。

○園児募集の取り組みとして、来年度はいちご組（2歳児保育）を週1日から週5日に変更や、満三歳児入園などを行うこととしている。

小 学 校：○重点項目の志願者増に向けた戦略的広報の実施については、内部進学志望者は昨年度に比べ微増したが、一般志願者については減員となっている。志願者増に向けての取り組みとして、在籍児童の兄弟姉妹の割合が高いことから在校生の弟妹にも志望してもらえるように教育の充実を図ったり、幼稚園や幼児教室で年中の出前授業を行ったりして本校の魅力をアピールしている。

○今年度ユネスコスクールのキャンディデート校として活動し、現在本加盟の手続きを進めている状況である。各学年で行う宿泊学習を今年度見直し、事前学習、体験、事後学習の流れを整理し、ユネスコスクール加盟申請へつなげる準備を行っている。

○様々な企業や団体（関西電力・天川村のフグ養殖・糞虫館など）と連携した授業やパラスリートとボッチャ体験など、様々な体験を通してキャリア形成能力の育成を行っている。

○あるテーマに基づいた内容の本を紹介するブックトークを全学年で取り組み、グループごとにつながりを考えながら一人一人が本を選んだり、原稿を書いたりしながらグループ発表を行う協同学習を行っている。

○個別最適化した場の構築として、AIドリルや英語ではATR（英語絵ラーニングシステム）を活用している。

中 高：○web ベース広告・web コンテンツを活用した広報活動の推進（ターゲティング広告、Zoom ウェビナー、LINE アカウント、YouTube 動画配信、個別見学会のオンライン申請、サイネージ広告など）や塾単位・県中南部での説明会の開催も行っている効果もあり、志願者数が699人（昨年度より126人増）、受験者数が565人（昨年度より102人増）となった。

○教員の質的向上と教員指導力の強化として、1学期には授業交流週間、2学期には公開研究授業を実施した。授業の質的向上のために生徒アンケートや保護者アンケートの結果もフィードバックしている。人権・道徳教育の充実として北部Aブロック公開HRを11月22日に実施し、高1、高2学年で異文化理解・多文化共生理解というテーマで公開授業を行った。

○小中授業参観・授業交流等を行うなどして幼小中高一貫教育の推進を進めている。

○学力保障の一つとして放課後学習支援システム「尚志館」と連携して質問対応付き自習室の充実を図っている。卒業生チューター（チューターの約1/3）が採用され、後輩の指導を行っている。

- 学習到達目標（GTZ）を各学年、類ごとに設定し、職員会議で各学年の進路担当から報告される模試の結果分析を共有し、その報告内容から課題や取り組み内容を確認している。
- 大学探訪（大阪大学・京都大学・奈良県立医科大学・奈良学園大学（保健医療学科））や卒業生によるキャリアトーク・合格体験発表会・大学模擬授業などを通して進学意欲の向上を図っている。
- AUS 研修（高2）に加えて、今年度より中3・高1対象にシンガポールグローバルリーダー育成研修（シンガポール国立大学生をメンターとする課題解決型のプログラム）を新規事業として実施（28名の生徒が参加）する。高1の3学期に実施するターム留学には今年度14名が参加する。
- 各学年の探究学習カリキュラムの充実を図るとともに、学びみらい PASS、みらい PASS ジュニアを活用してパフォーマンス評価を実施している。

②参観授業の感想

M4（中学2年）英語：担当教員がICT活用に非常に長けていて、様々なアプリを使いこなされていることに驚いた。Kahoot 等を授業で使われている教員も多いが使いこなすところまでいかずに操作に時間がかかったり、ゲームをしているだけになったりしている場合があるが、今日参観した授業では、それぞれのアプリやツールで何を学ばせるかをしっかり研究されて使われていたので、非常に良かった。また、家庭学習と授業の中での個別学習のバランスも考えられていることも感じられた。英語の基礎的な力（語彙・文法・発音）をそれぞれ違うツールを使って基礎力をつけられているところがよかった。今回のような基礎的な力がコミュニケーションの場でどのように生かされるか見てみたくなった。

PP（幼稚園）交通安全教室：警察の方から安全確認の仕方を教えてもらいながら体験する年長の様子を年中年少が見ることでロールモデルを園児も持てる環境は、奈良学園登美ヶ丘で目指されている異学年交流や校種間のつながりになっているように思った。幼稚園の園庭の紅葉がきれいだったのが印象的で、季節感がある落ち着いた雰囲気の中で学べることをもっと発信されたらと思った。

PI（小学1年）英語：ALT が非常に教える技能が高くて児童との人間関係も良さそうで安心して学べているところが印象的だった。ALT が英語で話していることが分からない児童もいると思うが、担任がうまくフォローしているところも良かった。月・曜日・天候・気分についての英語で言えることに本当に一年生なのかと驚かされた。発音も普段からきちんと指導されていることがよく分かった。

③各校種の取り組みについて

各校種からの活動報告についても幼小中高のつながりを大切にしていることがよく分かり、学園の取り組みの強さを感じた。他の幼小中高一貫の学校はあるが、奈良学園登美ヶ丘のように校舎がつながっ

ているような学校は少なく、どの学校も校地が少し離れていることで奈良学園登美ヶ丘ほどの一貫性は出なくなるので、幼小中高のつながりを大切にされていることは強みになると感じた。子どもたちが日常的に顔を合わせ、一緒に行事をしたり、コラボ授業を行ったりすることが一番大きな売りであると感じた。

広報については奈良教育大学でも苦労しているところなので、どの学校も悩ましい課題であると改めて感じている。

海外研修もたくさん取り組み国際交流の場を作られていることもよいと思う。奈良教育大学でも海外に行かない生徒もいるので留学生の受け入れの促進をし、キャンパス内に国際交流ができる環境を作っていこうと考えている。今後、奈良教育大学の留学生（教員研修留学生など）もたくさん増やしていこうと思っているので、奈良学園登美ヶ丘の生徒との交流する機会も考えてもらえたら協力もさせてもらいたい。

④その他

次回は令和7年3月6日（木）に1年間の教育活動について意見をいただくことで調整した。

Ⅲ-②

1. 学校関係者評価実施日 …令和7年3月6日（木） 10:00～12:00

はじめに、本日の予定を確認後、M1（小学5年）と、PP1（年少）の英語の授業見学していただき、その後ご指導いただいた。

2. 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

3. 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、榎幼稚園園長

立花中学校教頭、吉岡事務長

三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

4. 評価結果

①各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

全校種の年度末分掌・委員会総括表をもとに今年度の取り組みや次年度に向けての課題を報告する。

幼 稚 園

- 【教務部】
- ・遊びを楽しむ中で園児に力をつけていくことを本園の一番大切にして進めてきた。さらにその軸がぶれることなく進めていけるように、次年度は教員研修を深めていくことが求められる。日々の保育や園行事の指導について若手教員が単にベテラン教員の模倣にとどまるのではなく、園内体制を整え、園外研修への積極的な参加を推奨していく。
 - ・人権教育として、奈良学園大学との共同研究事業を通しての花苗植え、外部講師を招いての自然観察体験、中高の自然再生研究会による生き物観察会などを通じて園児が自然との関わりを深める体験を行うことができた。次年度も継続して実施する。
 - ・幼小交流については、次年度も小学校と協力をして進めていく。約半数の19名の園児が内部進学する。早い時期からの幼小交流や小学校の先生による年中児を対象にした体験授業を継続するなど広報面も含めて大切にしていきたい。

- 【総務部】 ・図書室活動として、家庭でも絵本を見る機会を増やしてもらうために、年長のみとしていた絵本貸し出しを2学期から全園児対象とし取り組みを広げることができた。今後も家庭との協力を得ながら広げていきたい。
- 【保健部】 ・コロナ収束後、さまざまな病気にかかる園児がでたが、うがいや手洗いの励行などを行って学級閉鎖がほぼなく過ごすことができた。
- 【給食委員会】 ・来年度から週2日の2歳児保育を毎日行うことに変更するにあたって、新たに2歳児の給食提供を行う。アレルギー対応など十分に気をつけて提供できるようにしていく。
- 【広報部】 ・今年度も説明会や体験保育の内容を工夫して行ってきたが、思うような集客につながらなかった。ただ個別見学に来ていただいた方のほとんどは、受験にまでつながったことを考えると地道なことかもしれないが、園の良さをアピールしていかないといけない。
- ・保護者アンケートでは良い評価をもらっているが、内部の口コミも含めて園での様子が外に向けて伝わるようにしなければならない。そのために来年度も限られた予算の中ではあるが、インスタ広告などさまざまなことで幼稚園の情報を広げていければと思う。

小 学 校

- 【教務部】 ・本校はまとめテスト・定期考査・内部進学など他の学校にない業務があるが、担当学年の教員だけでなく、全教員が対応できる体制を作っていくことが必要である。
- 【生徒指導部】 ・児童の登下校方面ごとにグループを作り、各学期に登下校班会を行って交通ルールやマナーについて共通理解を行っている。今年度は登下校班のリーダーに班の状況を担当教員に伝えさせる取り組みにより児童の登下校の様子をより把握できるようになった。
- ・今年度、保護者対象の防犯講演会を土曜日に開催したことで昨年度よりも参加者が増えた。
- ・スクールバスや電車で教員が同乗して指導する場合は静かであるが、教員の目がないと登下校時のルールやマナーを守れていないことがある。今後も指導を徹底していく。
- 【総務部】 ・コロナ禍により実施形態を変更していた小学校卒業式に見直しをかけ、保護者や教員の思いを反映した形態に変更して実施に向け準備を進めている。
- 【研究研修部】 ・年間3回、研究テーマに沿った交流授業、西私小連の半日研修会で本校を会場として算数の研修会、夏季休業中に2日間の教員研修会を実施した。
- ・西私小連の半日研修会では、公開授業だけでなく奈良教育大学の近藤先生による指導助言や講演など、200名近い私立小学校の教員が本校に集まり、大変良い研修となった。
- ・研究研修部が今年度の研修記録をまとめ、全教員で件数内容を共有した。
- 【広報部】 ・学校説明会や体験授業、YouTube動画広告やインスタなどな方法で広報活動

行ったが、来年度入学の一般志願者増には至らなかった。来年度も志願者増となるように取り組んでいきたい。

- ・来年度は学校パンフレットを一新して本校の魅力を伝え志願者増につながるようにしたい。

【One to One】

- ・夏の教員研修において教員全員でプログラミングや生成 AI についての研修を行った。今後は、普段の業務や授業等での生成 AI の活用について研修を深めていきたい。

【総合（ユネスコ）】

- ・現在、ユネスコスクールのキャンディデート校から本加盟に向けて申請を行っている。
- ・各学年の宿泊学習のストーリーマップを事前学習から事後学習までの一連の流れを重視した見直しを行った。来年度は、今回見直したストーリーマップとシラバスの関係をより明確にして本校の目指す子ども像に近づくように進めていく。

【総合（キャリア）】

- ・今年度も対面式、七夕集会、縦割り遊びなど、縦割り活動を行ってきた。来年度も児童にとってよりよい縦割り活動となるよう実施していく。
- ・現在、ユネスコスクールのキャンディデート校から本加盟に向けて申請を行っている。
- ・各学年の宿泊学習のストーリーマップを事前学習から事後学習までの一連の流れを重視した見直しを行った。来年度は、今回見直したストーリーマップとシラバスの関係をより明確にして本校の目指す子ども像に近づくように進めていく。

中学校・高等学校

- 【教務部】 ・今年度の高校3年生より新課程入試となった。今回の入試状況を受けて来年度は新カリキュラムの見直しを進めていきたい。

- ・5年前より始めた尚志館（放課後学習支援システム）であるが、本校の卒業生も7、8人チューターとして後輩の指導に関わってくれたり、登録者数が100名を超えたりなど教員にもさらに認知され、信頼度も増してきた。学期末に成績不審者の講習では、教員が作成した教材を使用するなど尚志館のチューターと連携して指導を行っている。

- 【進路指導部】 ・各模擬試験の分析会を行い、模試や入試の動向を確認している。その内容を生徒や保護者にも情報提供している。今までは2学年で実施していた進路講演会を学年毎にさらに生徒向け及び保護者向けに行った。さらに講師を外部に依頼するのではなく、進路指導部長が講演を行っている。

- ・国公立大学の推薦入試を充実した取り組みを進めている。
- ・大学探訪においては、従来の京都大学、大阪大学、医学部探訪に加えて奈良学園大学の看護学科とリハビリテーション学科の先生に協力してもらい、施設見学や説明を聞く機会を設けた。

- 【生徒指導部】
- ・生徒会とも協力して挨拶運動を行っている。挨拶する生徒が増えてきている。
 - ・特別指導の件数はかなり減ってきており、生徒は落ち着いて学校生活を送れている。
 - ・見守りフィルターを活用して、自殺をほのめかすような検索をしている生徒にいち早く対応している。また、校務処理システムを利用して生徒の情報（問題行動や配慮が必要な内容など）を他学年の教員とも共有している。
 - ・スマホや SNS を通じたトラブルに対して、外部講師を招いてネットリテラシーの講習会も実施している。
- 【総務部】
- ・生徒手帳を A5 サイズからポケットサイズにリニューアルし、生徒が持ち歩きやすくした。
 - ・各教科だけでなく特別支援教育に関する研修などの教員研修システムの構築を模索している。
- 【広報部】
- ・昨年度の約 120 名の志願者増だったが、今年度は昨年同様の志願者数となった。
 - ・専願受験者及び B 日程受験者が過去最多となった。
 - ・今年度は 170 名の入学予定者となり、来年度は 1 クラス増の 5 クラスとなる。
 - ・WEB 媒体を利用した学校 PR も進んできている。
- 【保健部】
- ・高校 1 年生対象に「輝きスクール」を実施し、女性の健康教育をテーマに婦人科の先生に講演をしていただいた。女子生徒はもちろんであるが、男子生徒にも将来のパートナー、家族や学校や職場の女子の健康に対しての理解を深める機会となった。
 - ・今年度から奈良学園大学の特別支援教育を専門としている先生の協力いただき、特別支援の観点での教育相談や発達検査やカウンセリングを行うなど教育相談体制の充実を図った。
- 【人権推進委員会】
- ・高人数北部 A ブロックの公開ホームルーム研修会を本校で実施した。高 1 と高 2 の全クラスで異文化理解をテーマに生徒のプレゼン形式の公開授業を行った。
- 【生徒会指導部】
- ・生徒が立案した様々な新企画を実施した。
- 【国際交流部】
- ・ターム留学（オーストラリア）に過去最多の 14 名が参加。次年度から法人より費用支援としてターム留学に関して奨学金が給付されることとなった。
 - ・今年度よりシンガポール研修を実施。中学 3 年生と高校 1 年生計 28 名が参加。シンガポール国立大学の学生とコラボして課題解決型のプログラム等を行った。
 - ・今年度の卒業生が北米の大学に進学することとなった。
- 【探究学習プロジェクト】
- ・今年度で 5 年目となるが、各学年でテーマを設定して取り組み内容も充実してきた。
 - ・ループリックを用いた評価には課題はあるが、今年度の卒業生が探究学習の 1 期生となるが卒業式の答辞で、探究学習で協働力やコミュニケーション力が身についたと触れてくれた。
- 【巡回指導サポートチーム】
- ・巡回指導サポートチームの教員のみならず、学年の教員の巡回によりトラブルが減っ

てきたように思われる。

- ・巡回等による情報を生徒指導、スクールカウンセラー、担任、保護者との連携ということでスクールカウンセラーと巡回教員による情報交換会を月1回行って情報の共有を行っている。

【いじめ初期対応チーム】

- ・いじめアンケートの実施やアンケート実施後の集約会議を行い、いじめのない環境づくりに努めている。

②参観授業の感想

M I (小学5年) 英語 ・児童にとって、来年度の交流というはっきりしたゴールがあるので、モチベーションも高く、一人一人が友達の発表をよく聞いた。

- ・発話もよく練習されていたイントネーションなどもしっかり言えていた。
- ・プレゼンで伝わる英語は難しいが、写真や字幕などを使って伝わるものになっていた。
- ・授業中に出てきたキーフレーズでリピートさせて発話させる方が良い。キーフレーズを使えるようになると交流時、さらに良い交流ができると思う。

- ・学年ごとに目指すべきものがあるので、英語学習のモチベーションがあがるのはとてもよい。

PP I (年少) 英語

- ・ALT がうまく授業を展開していて、表情や音声等で幼児に伝わりやすいように工夫されていた。
- ・音楽や TPR (Total Physical Response 身体を動かしながら英語を身につける方法) を活用して効果的に授業がなされていてよかった。
- ・年少なので簡単な言葉と動きを対応させながらできていたが、今後、年中、年長と繰り返し行っていくことで、どんどん言葉を覚えていけるようになると思う。

③各校種の取り組みについてのご指導・ご意見等

- ・各校種からの説明内容を聞いて、どの校種も適切に年間総括の評価がされているように感じる。
- ・教員の働き方についての評価項目は作られるか。
→働き方についての評価項目は設けていないが、衛生委員会を各校種で行って教員に職場環境や健康についての意見を聞いたり、幼小中高の合同の衛生委員会を行い産業医からも助言をもらったりしている。また、教員へのストレスチェックを行い、ストレスの高い教員には産業医に個別に相談できる機会も設けている。
- ・中高の志願者が増加している点について具体的にどのような取り組みをしているのか。
→塾訪問を行ったり、学校見学会で生徒(チームなど)とみんという広報活動のボランティアサークルから学校説明(英語での学校紹介など)を行う機会を設けたりしながら手厚く対応する学校であるという PR 活動を行っている。また、進路実績の報告も行っている。

- ・幼稚園及び小学校の教員研修について、学外への研修の機会をどのように設けているのか。
→（幼稚園）奈良県の私学連盟や園長会からの研修案内を教員へ伝えるが普段の保育があるため、積極的に研修に行くことが難しい状況である。夏期・冬期休業中に行われている研修会に個人的に参加する教員がいた。
- （小学校）全教員が年2回（5月・11月）の西私小連教員研修会へ参加している。
各教員へ研修会の案内し、参加については個々に任せいている状況である。
- ・校内で授業を見合ったり、授業研究を行ったりすることも有効だとも言われているが、外部の研修会に参加することで良い刺激を受けたり、新しい視点を持てたりすることもあるので、英語教育に関しては奈良教育大学で年に3回行っている小中高大の研究会を案内させてもらえたらと思う。

④その他

来年度も前田先生に学校関係者評価・第三者評価委員会の委員としてご意見をいただける調整した。

Ⅱ PTA 関係者による学校関係者評価委員会

Ⅱ-①

1. 日時 令和6年6月13日 10:00～11:30

2. 開催場所 育友会館

3. 参加者

評価者名 川口優加子（登翔会会長）、佐々木雅代（高等学校副会長）、森脇珠里（中学校副会長）
奥田一子（小学校副会長）、大竹由里恵（幼稚園副会長）
藤村遼子・古川寛子（会計）、上田智里（書記） ※欠席：荒木冴子（書記）

学校園参加者

安井幸至（総括監兼中高校長）、高塚佳紀（小校長）、槇 康二（幼稚園長）、
三笥康之（高等学校教頭）、立花正幸（中学校教頭）、岡井幸紀（小学校教頭）
※欠席：日比忍（小学校教頭）

4. 協議内容

- ① 校園長より保護者会役員へ学校関係者評価委員の依頼を行う。
- ② 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針と核となる取り組みについて説明する。
（資料 別紙） 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 中期計画
奈良学園小学校中期計画
奈良学園幼稚園中期計画
- ③ 2学期には、実際の教育活動も点検していただき、ご意見をいただきたい旨お伝えする。
3学期には、一年の取り組み状況を説明し、ご意見をいただき、次年度に繋ぎたい旨お伝えする。
- ④ 現在、小中高で検討中のポロシャツ（オプション品）の生地やデザイン等について意見収集をお願いする。
- ⑤ 質疑応答・意見交換
質問①奈良学園登美ヶ丘の3+4-4-4のルートマップの活用について

- ・中高との連携を更に充実させてほしい
- ・幼稚園の時から、中高までの動きが分かるようにしてほしい。
- ・幼稚園から小中高へ進学、そして卒業した卒業生の意見を聞いてルートマップにつなげられないか。
- ・具体的なカリキュラム上でのルートマップについてはまだ課題があるが、幼小中高の授業交流等を通じて共有し、管理職を中心にルートマップに反映できるようにしていきたい。
- ・小学校の説明会で卒業生のインタビュー動画を流し、奈良学園登美ヶ丘での教育課程を説明会参加者に説明している。教員が語るよりより効果的である。

質問②小学校のパンフレットの中でもう少し学力保障の記載があってもよいのではないかな。

→ご意見を反映させていきたい。

質問③小学校から中学校への内部進学について、保護者間で噂としての話や、曖昧な話が多く心配な部分がある。過年度の進学率の数字（約5～7割）が先に歩いている気がする。

→・進学率については、年度によって違い（学年の人数や児童保護者の意向、学力面など）があるが、例年約6割の内部進学率になっている。

・内部進学説明会をM過程に入ってから説明ではなく、早い段階（P3,P4）からしていくことを検討する。本年度からは、内進説明会に中高教員から中高での進路について説明があるなど、小学校の保護者に中学進学後の具体的な話を聞いてもらう機会ができたことは良いと思っている。

質問④小学校の時に、奈良学園大学の松井先生の防犯についての講演を聞いて良かった。

中高の保護者向けに講演会の実施はないですか。

→ご要望について、中高でも保護者対象のネットマナー等の講演会を検討したい。

質問⑤幼稚園の園児数の減少を心配している。園が良いと思っていることと、保護者が良いと思っていることは違っているかもしれないので、教えてほしい。

内部進学、上級学年との交流の良さをもっと出してはどうか。

→思いが違ふことは全て悪いことではないが、保護者からの口コミは大切。幼稚園の良さを有効的に伝えていきたい。本園での学びは全体的な良さがある。この部分だけがこうだということではないが、新たな取り組みを含め、フォーカスポイントを絞っていききたい。

意見①スマートフォンの活用について、アプリの活用を認めてほしい。

→アナログとデジタルの有効活用を行いたい。

意見②先日、登校後の警報発令により下校時刻が早まったが、小と中高の下校時間が

異なっていたので、できれば中高生と時間を揃えて帰してもらえれば、小学生を中高生が見守る形で下校でき安全だと思うので検討してほしい。

→一斉に帰るという状況の場合はそうさせていただきたい。

意見③女子には夏用のカーディガンがあるが、男子にはない。エアコンで寒いと感じる男子は夏でも冬用のセーターを着ないといけなないので、男子にも半袖に羽織れる夏用のカーデ

イガンを検討してもらえないか。

→現在検討中のポロシャツとともにカーディガンの件も検討する。

Ⅱ-②

1. 学校関係者評価実施日 …令和6年11月14日(木) 10:00~12:00

はじめに、全学年の保育の様子をご覧いただき、PP2とP2の交流会(芋掘り)の様子も参観いただいた。その後、本園の今年度の取り組みに対するご意見を求めた。

2. 評価者 大竹由里恵、上田智里(PTA関係者)

3. 評価結果

【参観の様子から】

○子どもたちが生き生きと活動している様子を見て、嬉しかった。芋掘りも楽しそうだった。

【学校アンケートの回答率について】

○アンケート回答率がなかなか上がらないのは、面倒と感じる方がいるからだろうか。自由記述だけマークシートとは別の用紙に記入する形になっているが、否定的な項目を選択された際には、簡単で良いのでその理由を書いていただけたら、参考になるのではないか。

○安心でんしょばと(メール)でフォームを送って回答する方法が楽かもしれないが、メールを見ていない(開封していない)保護者が一定数おられるのも事実。

【運動会等行事について】

○運動会の観客席を3人にしていただいたのはありがたかった。また、土曜日だめでも日曜日必ずあるのはありがたい。役員さんの仕事についても、さらに日程延長になると来てもらうのが難しい。

○小学校との連携・交流の機会が広がることを期待している。以前は授業体験みたいなものがあったと思う。年少・年中組の子どもたちが、小学校の体験ができる機会をもって、それを保護者も参観できるようにすれば、内部進学への広報にもつながると思う。

○行事が以前より少なくなった(マーチングフェスティバルやマラソン大会など)ので、残念がっている親も多い。親としては子どもががんばっている姿を見る機会が、少しでも多いと嬉しい。ただ今年度は、2学期に行事が集中して先生方も大変だったのではないかと感じた。

【その他】

○担任の先生から学級のおたよりが配布されるようになって喜んでいる。ほぼ写真のものでも十分で、とても嬉しい。お泊り保育のおたよりは、降園時間に早速見て、親同士でとても盛り上がっていた。いただいたおたよりは、子どもの記録としてずっと保管している。

○奈良学園幼稚園の良さとして、先生方が一人一人に寄り添って、柔軟に対応してくださっていることが大きな魅力の一つと思っているが、それを他の人に伝え、広報に繋げることは難しい。

Ⅱ-③

1. 学校関係者評価実施日 令和7年2月21日(金) 10:00~11:30

はじめに、きらきら発表会の練習の様子を中心に、保育の様子をご覧いただいた。その後、本園の今年度の取り組みに対するご意見を求めた。

2. 評価者 大竹由里恵、上田智里(PTA関係者)

3. 評価結果

【参観の様子から】

○元氣いっぱい、子どもらしい姿を見られて嬉しい。そんな雰囲気を先生方が引き出してくださっているのだと思う。

【きらきら発表会の取組について】

○きらきら発表会の発表練習の様子を参観して、他の学級の発表を鑑賞している様子も、とても落ち着いていた。発表の劇中で餅つきの場面があり、餅つきを見たことがなかったので子どもが興味をもった。今回、家で餅つきができる機械を買って体験し、喜んでいる。知らないことを知る良いきっかけとなった。

○きらきら発表会がコロナ以降、学級ごとの発表になって淋しい。せめて同学年の、隣の学級の発表は見たいという声があがっている。動画配信など、検討いただけるとうれしい。

→動画配信については検討中。来年度から学級ごとの園児数も減るので、より良い方法を検討していきたい。

【学校アンケートの回答率について】

○懇談期間中なので、懇談に来られた時にその場で記入いただくように促してはどうだろう。

○その他の項目（別紙）は、質問事項以外のことを記入するものと考えの方が多。否定的な回答をした理由を、そこに記入してよいとお示ししたら書いていただけるかもしれない。

○アンケート項目の中で「意欲」「主体性」という言葉が、幼児教育のどんなところについてのことなのか分かりにくく、回答が難しい。具体的に示していただければ良いのではないかな。

【参観について】

○体験授業の参観は子どもの様子を見る機会としても良かった。内部進学へのアピールを兼ねているのであれば、もっと積極的にアピールしても良かったのではないかと感じた。

○「スポーツ教室」「体育の先生と遊ぼう」「英語の時間」など、日頃行っている活動を体験授業の参観のように気軽に見に来られる機会があると嬉しい。

○自由参観日は、時間の設定が長かったので、どの時間帯に参加するか、保護者の間でも話題になっていた。日頃の保育の様子を見る機会としてはとても良いと感じた。

【保護者への情報提供について】

○ながらもくようちえん日記は、みんなとても楽しみにしている。子どもの表情から普段の園生活の様子がよく伝わってくる。玄関に掲示していただいているので、子どもと一緒に見る事ができて会話も弾み、その点でもありがたい。園長先生からのコメントも、みんな読んでいるので、お考えなどがそこに表れているように感じている。

【広報に関わるご意見】

○幼稚園を選択する際に、その幼稚園の特徴をざっくり言うと「教育的」と「のびのび」に分かれる。送迎バスの有無も候補の基準になっているようだ。また、小学校への内部進学を希望して入園される方が以前は多かったが、最近は減っているように感じる。

○幼稚園を卒園して中高へ上がったOB・OGらが自らの体験を伝えるような広報は効果的。

○例えば小学校の教頭先生が園児の保護者に、直接お話しになるような説明会を開いても良いのではないかな。